

4 環境農林委員会における柳下礼子県議の質疑

2017年7月3日

◆付託議案に対する質疑（農林部関係）

Q. 柳下委員

- 1 これまで、動物との触れ合いをどのようにやってきたのか。
- 2 地産地消の観点から、野菜や牛肉をその場で食べることができるのか。
- 3 畜産をめぐる情勢は厳しいものがあるが、現状はどうなっているのか。また、どのように改善していこうと考えているのか。
- 4 利便性向上施設整備としてバリアフリー化を行うとあるが、現在はどのような状況なのか。また、どのような整備をしていくのか。

A. 畜産安全課長

- 1 放牧したヤギとの触れ合いができる。ヒツジについては、ヒツジ舎の整備により、放牧するエリアで柵越しになるが触れ合えるようになる。
- 2 牧場内では火を使えないので、焼き肉などはできないが、畜産物の加工品やパック詰めになった精肉を販売する。
- 3 肉牛には和牛、交雑種、ホルスタイン肥育牛があるが、全国的に見ても埼玉県は和牛の比率が低い。牧場では、繁殖雌牛や肥育素牛を農家に譲渡する事業をしている。また、彩の国黒豚や、豚の凍結精液を用いた人工授精技術を普及し、戦略的な生産を支援している。
- 4 砂利敷きで、車椅子の方が通れない場所があるため舗装し、バリアフリー化する。

Q. 柳下委員

- 1 ヤギやヒツジを放牧するとのことだが、今後、どのような人を対象にどのように来場者

を増やすのか。

- 2 東松山市内の牧場直売所では、和牛とタマネギをセットにし、牛丼調理用として販売していたりもする。農家と連携して、このようなお土産の販売について考えているのか。

A. 畜産安全課長

- 1 現在、子連れや孫を連れてくる高齢者の方が多い。ヤギは、おとなしいので子どもが触れ合うのに向いている。ヒツジは群れで行動し、じかに触れ合うのは難しいため柵越しに触れ合うことを考えている。
- 2 直売所では、生産者自らが販売をしているが、生産者とも連携できるように検討する。

Q. 岡地委員

- 1 ネギの根が食害されるということ初めて聞いた。熊谷市、深谷市の一部で2年ほど前から発生しているということだが、平成27年度からの発生状況について教えてほしい。また、外来種ではなく新種であるのか。
- 2 被害面積、被害金額について教えてほしい。

A. 農産物安全課長

- 1 新たに確認された重要病害虫については、幼虫がネギの根の付け根から上の白い部分を食害する被害が出ている。県では、今年度防除対策を実施した地域での防除効果の確認と合わせて、被害状況を調査したいと考えている。発生調査は、平成27年度は行っていない。平成28年度に実施した調査は、防除実施範囲を確認するための発生地域を特定するための調査であり、発生面積は把握できてい

ない。平成28年6月に国内未確認の種のクロバネキノコバエ科の一種であると判明した。これまでの研究で、国外で同様な種の存在は確認されているが、外国から侵入してきたか、突然変異かは試験研究中である。

- 2 被害面積を把握することは非常に難しい。理由は、この重要病害虫はクロバネキノコバエ科の一種であるが、食害があってもネギとニンジンとは、共に地上部が枯れないため、被害面積を捉えることができない。また、被害の程度はほ場ごとに差があり、一概に栽培面積から被害面積を算出することができない。さらに、ネギ、ニンジンとも作付面積の統計数値がないことや生産者の出荷先が産地の市場、農協、農産物直売所など多岐にわたることなどから、被害金額の算出は難しい。

Q. 岡地委員

- 1 国の防除方針に基づく徹底防除とのことだが、薬剤散布の面積はどのくらいを考えているか。
- 2 出荷残さを焼却処理するとのことだが、処理量はどのくらいか。

A. 農産物安全課長

- 1 まん延防止のために散布する地域を含め、590ヘクタールを予定している。深谷市は360ヘクタール程度、熊谷市は230ヘクタール程度である。
- 2 2,500トンと積算している。

Q. 岡地委員

590ヘクタールはかなりの面積だが、農薬の効果は確認しているか。

A. 農産物安全課長

今回使用する農薬は、今年2月に新たに登録された1剤と、6月に登録された2剤の合計3剤である。試験研究機関で、病害虫に効果があることを確認し登録されたものであり、防除効果があると考えている。

Q. 岡地委員

- 1 近隣県での発生状況はいかがか。
- 2 ネギへの食害が分からずに食べてしまった場合の健康への安全性はいかがか。

A. 農産物安全課長

- 1 平成28年度に国の指示に基づき、本県に隣接する1都6県の、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、山梨県、長野県において発生状況の調査が実施された。この結果、群馬県で一部発生が確認されたが、そのほかの県では確認されていない。
- 2 人畜無害である。仮にこの虫を食べてしまっても、人の健康を害することはないと聞いている。

Q. 柳下委員

深谷ねぎへの風評被害等を懸念しつつも、発生を拡大させないため早く対策を打つ必要がある。今回の対応状況について聞きたい。

A. 農産物安全課長

平成26年度、平成27年度は、登録農薬がなかったことから、出荷残さの適切な処理や虫が付着したネギが市場流通しないように指導を行った。